

やさしい病害虫講座 29

「大食いの居候」

木村 裕

我が家には大食いの居候がたくさん住み着いており、エンゲル係数が高くなっていると、奥様にぼやかれています。

その居候の影響をもろに受けているのがアサガオで、お尻に1本の角を生やし、私たちの指よりも太くなったイモムシさんが、貴重な葉を毎日パクパク食べて、大きな黒い糞を、株元にゴロゴロ転がしています。



保護者はエビガラスズメさん（蛾）で、胴体が太くて、背中に茹でたエビのように赤い縞模様があります。お子様は8月頃から発生しますが、その頃は体が小さく食べる量もほんの僅かなので気がつきません。9月になって、皮を脱ぎ最終段階になると、一気に体が大きくなり食べる量も急増します。食べ盛りの中高生を養っているようなものです。この幼虫は衣装持ちで、黄色、緑色、黒色など装いはまちまちです。



体が大きいにも関わらず体色が保護色なため葉や茎にとまってもなかなか見つかりません。転がっている大きな虫糞が発生の手掛かりになりますので、発生ありとなればじっと葉を睨んで虫を見つけて捕獲しましょう。

好き嫌いなく何でも美味しく葉っぱを食べてくれるのがヨトウムシさんです。ちょっと油断すると、育苗中の小さな花苗があつという間に丸坊主にされて、軸だけになっています。虫はまだ小さな頃は食べる量も僅かなので発生に気がつきませんが、大きくなると食うは食うはで、食べる量は半端ではありません。この頃にはすでに地中に潜っているので薬剤散布は手遅れで、夜8時頃、懐中電灯をもって見回り、葉上で胡坐座りをしている虫を捕まえているしだいです。



ならやまでも花から花へヒラヒラと飛びまわっているツマグロヒョウモンさん。黄色の地に黒い筋模様があるので、豹紋蝶と言われており、オスの蝶の羽の先が黒いのが特徴です。幼虫の主食である、野生のスミレと宿根の西洋スミレが豊富にあることから、一年中我が家の庭で増え続けていたのですが、一昨年あたりからお子様が一言の断りもなく育苗中のパンジー苗を無断でムシジャクシャと根こそぎ食べ、困ったものです。

